



題字は福島慎太郎初代理事長

第49回「日本の書展」の関西展・九州展が中止に

第49回「日本の書展」も前回に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた。会期直前の令和3年4月末に3回目の緊急事態宣言が発出され、関西展（大阪府）、九州展（福岡県）は、それぞれ府や展覧会場からの要請により、開催中止となった。残念ながら、関西展は前回に続き2年続いての中止となった。中部展、東京展については緊急事態宣言下ではあったが、展覧会場の方針として開館しており、最大限の感染症予防対策を行って開催した。各会場施設では消毒液設置や体温測定などの対策がされていることに加えて、当会でも消毒液の設置、ガラスケースやソファの定期的な消毒、スタッフのマスク着用、徹底、前回より変更した作品検索台帳や閲覧用図録サンプルを壁面掲示にするなどの対策をした。開催披露祝賀会およびギャラリートークは中止している。

第49回直轄4展の出品者総数

中部展

令和3年6月1日（火）
～6月6日（日）

愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）
主催（公財）全国書美術振興会、中日新聞社
後援 文化庁、愛知県、東海テレビ放送
協賛（公社）中部日本書道会

出品数は、巨匠、代表の116点、委嘱17点、招待197点、秀拔選409点、合計739点、入場者数は約1700人だった。

中日新聞紙面では展覧会紹介、また東海テレビ放送でも展



愛知県美術館ギャラリー

公益財団法人
全国書美術振興会
会報
第39号
令和4年3月1日発行
発行者（公財）全国書美術振興会
編集責任者 坂本敏史
東京都港区赤坂 2-11-1
デルックス溜池山王 6階



東京展

令和3年6月10日（木）
～6月20日（日）

国立新美術館
主催（公財）全国書美術振興会、共同通信社
後援 文化庁
出品数は、巨匠、代表の116点、委嘱17点、招待197点、秀拔選409点、合計739点、入場者数は約1700人だった。



中部展会場入口での入場記録カードの記入コーナー

覧会場の様子が放映された。入場者に対しては、施設館内での感染者クラスター発生時の追跡対策として「入場記録カード」の記入に協力してもらった。

公募臨書（東京展会場内）

令和3年6月10日（木）
～6月20日（日）

国立新美術館
「日本の書展」第40回より始まった臨書に限った公募展で、



国立新美術館

10回目を迎えた。例年10000点に迫る応募があるが、今回は816点と応募数が減少した。審査は当会役員で構成される9人の審査員によって行われ、その中から364点（漢字272点、かな84点、篆刻8点）が入选し、表具した作品は第49回「日本の書展」東京展の会場内に前期と後期に分けて展示された。作品は展覧会終了後、入選證と一緒に入選者に届けられた。

巡回展

例年、「日本の書展」直轄4展が終了後、巨匠、代表の作品に地元の有力量家の作品を加えて、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回している。第48回展の4会場は新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となったが、第49回展は予定通り開催されている。

富山（北日本新聞社）
令和3年7月15日～7月18日
富山県民会館

鳥取（山陰中央新報社）
令和3年8月27日～8月30日
米子市美術館

青森（東奥日報社）
令和3年9月4日～9月6日
New's TO-Oビル 3階催事場

広島（中国新聞社）
令和3年9月30日～10月5日
福屋広島駅前店 8・9階催事場

岡山（山陽新聞社）
令和3年10月13日～10月18日
天満屋岡山店 6階葦川会館

奈良（奈良新聞社）
令和4年2月23日～2月27日
奈良県文化会館

長野（信濃毎日新聞社）
令和4年3月4日～3月8日
長野県立美術館

茨城（茨城新聞社）
令和4年4月9日～4月14日
ザ・ヒロサワ・シティ会館（茨城県立県民文化センター）

子どもの毛筆体験教室「筆もじにトライ！」

2021開催

令和3年7月16日（金）～18日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟2階「和室」

スケジュール

7月16日（金）

A 10時50分～12時00分
（参加者が少なく、Bコースに合併）

B 14時40分～15時50分

7月17日（土）

C 10時50分～12時00分



水書用紙を使ってスタート



D 14時40分～15時50分

7月18日（日）

E 10時50分～12時00分

F 14時40分～15時50分

前回は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止したが、今回は感染症対策を十分配慮しながら、体験人数を減らし、1コース10人を2部屋に分けて開催。3歳から小学校1年生までの42人が参加した。体験がはじまると講師の話をしっかり聞きながら、水書き、墨磨りを体験し、自分で選んだうちに磨った墨と筆を使って線や文字を書き込み、楽しそうにうちわを仕上げていた。保護者からのアンケート回答でも体験内容はたいへん好評で、次回の参加や今後も書道に触れてみたいとの声もあった。

今回も、国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」からの助成を受けている。

「書道」が初の登録無形文化財に登録され、日本書道文化協会が保持団体に認定される

令和3年12月2日の官報において、「書道」が登録無形文化財に登録され、同年8月26日に設立された日本書道文化協会が書道の保持団体に認定された。既に10月15日に文化審議会答申で公表された内容だが、今回の官報告示により、正式に「書道」が登録無形文化財となり、日本書道文化協会が保持団体になることが決定されたことになる。

文化財保護法による登録無形文化財の登録は、書道が初めてであり（伝統的酒造りも同時に登録）、我が国が保護継承していく文化財として認められたことは書道界にとって大きな朗報だ。また、従来目指してきた「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けても大きな前進と言える。

12月27日、末松信介文部科学大臣から日本書道文化協会（井茂圭洞会長）に認定書「文化財保護法第76条の7第3項の規定により登録無形文化財 書道の保持団体として認定します」が手交された。

【日本書道文化協会を設立】

令和3年8月26日、東京都内で「日本書道文化協会」設立総会が開催された。

はじめに発起人を代表し井茂圭洞先生があいさつを行い、文化財保護法の改正による登録無形文化財制度の創設を踏まえ、日本の書道文化の継承、発展のために新しい協会の設立をお願いした。総会では規約案が承認され、会長に井茂先生、副会長に黒田賢一先生、高木聖雨先生をはじめ、役員が選出された。



末松信介文部科学大臣から井茂会長に認定書を交付



左から黒田副会長、井茂会長、末松大臣、高木副会長

日本書道文化協会には38の書道団体を代表する41名の書家が参加することになった。

【日本書道文化協会の概要】

○目的

この会は、書道の伝統的な書法を受け継ぎ、未来へとつないでいくために、その書道の技の保存と向上を図ることを目的とする。

○役員等

(令和4年2月1日現在・敬称略)

特別顧問

河村建夫

(元内閣官房長官、元文部科学大臣)

田中壮一郎

(全国書美術振興会会長)

老川 祥一

(読売新聞グループ本社代表取締役会長兼主筆代理、読売書法会会長)

丸山昌宏

(毎日新聞社代表取締役社長、毎日書道会理事長)

飯塚 浩彦

(産経新聞社代表取締役社長、産経国際書会会長)



「日本書道文化協会」設立総会

中村 史郎
(朝日新聞社代表取締役社長)

三土 正司
(株式会社共同通信社代表取締役社長)

顧問

日比野光鳳

中野 北溟

樽本 樹邨

井茂 圭洞

黒田 賢一

新井 光風

土橋 靖子

星 弘道

岩永 栖邨

辻元 大雲

船本 芳雲

遠藤 彊

岡田 契雪

鈴木 春朝

明石 聰濤

伊藤 仙游

近藤 浩平

田頭 一舟

森上 光月

柳 碧蘇

渡部 會山

尾崎 桐雨

石澤 蒼石

篠田 聰泉

松井 玉箏

柳 濤雪

山本 大悦

和中 簡堂

尾崎 邑鵬

杭迫 柏樹

高木 聖雨

石飛 博光

仲川 恭司

真神 巍堂

高木 厚人

中村 仲夫

室井 玄聳

高木 厚人

高木 厚人

○事務局
東京都港区赤坂2-11-1 デ
ルックス溜池山王 全国書美術
振興会内
TEL 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
メールアドレス
info@nihonshodobunka.jp

ホームページ
<https://www.nihonshodobunka.jp>

【日本書道文化協会の主催事業】

①登録記念シンポジウム・特別揮毫会を東京・大阪で開催

(文化庁補助事業)

〈東京会場〉

令和4年2月5日(土)

13時~14時30分

有楽町よみうりホール

協力 全国書美術振興会

講師・揮毫者

高木 聖雨 高木 厚人

室井 玄聳

司会進行

文化庁説明 永守 蒼穹

参加人数 約300人

〈大阪会場〉

令和4年2月12日(土)

13時~14時30分

OMMビル 2階 Cホール

協力 日本書芸院



シンポジウム・特別揮毫会 (東京会場)

講師・揮毫者

黒田 賢一

中村 伸夫

森嶋 隆鳳

文化庁説明

吉野 亨

参加人数

約200人

②高等学校等への会員書家の派遣事業、書道に関する調査研究事業を開始

日本書道文化協会では、今後、書道学科等を有する高等学校に会員等の書家を派遣し模範実技などの授業を行うなどして若い世代への書道の普及啓発を行う。また、登録無形文化財としての書道についての調査研究も行うこととしている。

【賛助会員の募集】

日本書道文化協会では継続的活動のために団体、個人の賛助会員を募集しており、令和4年2月1日現在、58件の参加をいただいている。年会費は団体3万円、個人1万円。

文化庁による書道の登録無形文化財の内容解説

(一)登録無形文化財の登録について

①名称

書道(しやどう)

②登録無形文化財の概要

書道は、毛筆を用いて言語を表記する表現行為であり、漢字、仮名、漢字仮名交じりによる表現のほか、篆刻(てんこく)も含まれる。書道では、文房四宝(筆、墨、硯、紙)をはじめとする多様な用具用材を用いる

ら、優れた書の臨書を通じた書法の習得に始まり、それを追究、応用することによって、高度に美的な表現を創出してきた。

歴史的には、漢字の伝来以来、中国の優れた書から書法を吸収、技法を工夫していく中で、平安中期以降、和様と称される漢字の書風が生まれ、また、和歌文化の隆盛とともに仮名の書が発展した。仮名の書においては、散らし書きや漢字の手法を発展させた連綿の技法を用いて、装飾料紙等に特有の表現が展開された。これらの中で優れた書は、後の時代に名筆として重視され、単に典籍の写本としてだけでなく、文字や書法を学ぶための手本として、また、鑑賞の対象として尊重されてきた。

さらに、江戸時代になると伝統的な書法が庶民層にまで受容されるようになった。

このように、書道は時代が下るにつれて手習いの実践と、目習いとも呼ばれる鑑賞の蓄積によって広く生活の中に受容され、浸透してきた。そのため、現代における優れた書の表現にも伝統的に育まれてきた美意識を見とることができるとともに、芸術上の価値が高いものである。

③登録の要件

一 文房四宝(筆、墨、硯、紙)の使用を原則とすること。

二 伝統的な書法によること。

三 次の分類に応じた書表現を行うこと。

- ・漢字の書
- ・仮名の書
- ・漢字仮名交じりの書
- ・篆刻

（二）保持団体の認定について

① 保持団体

日本書道文化協会

② 保持団体の概要

日本書道文化協会は、書道の伝統的な書法を受け継ぎ、未来へと継承していくために、その書道の技の保存と向上を図る目的で、伝統的な書法の技を受け継ぎ、継承者を持つ書家を正会員として令和3年に設立された団体である。

書道界には、漢字、仮名、漢字仮名交じり、篆刻それぞれを専門に活動を行ってきた団体があり、そうした団体が、これまで長年にわたり書法の継承や普及・発展、後進の育成等の活動実績を積み重ねてきた。日本書道文化協会は、それらの団体を代表する書家が主たる構成員となり、会派を超えた組織として結成されている。同協会は、これまでの各団体の活動の枠を越えて事業を行うことにより、書道の保護と発展に貢献することとしており、その規約には、伝統的な書法の保存に関すること、書道文化振興のための展覧会、講習会、研究会の開催事業等を、目的を達成するための事業として位置づけ、活動に取り組んでいる。

以上のように、同会は、登録無形文化財の保持団体として適切な団体である。

日本書道ユニスコ登録推進協議会の活動報告

ユニスコ無形文化遺産登録推進運動の一環として、協議会主催の講演会「つながる日本の書道文化 ユネスコの無形文化遺産に」を開催した。

講師には、ユニスコ事業に精通する元ユニスコ日本政府代表部特命全権大使の佐藤地（さとうく）氏を迎え、「ユニスコの遺産事業としての無形文化遺産」と題した40分間の講演を行った。平成27年にユニスコ世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」には、山口県萩市の5つの遺産が含まれており、また同年は佐藤講師がユニスコ大使に就任されて「明治日本の産業革命遺産」登録事業に携わったことから、ゆかりある山口県での講演会となった。

講演会は人数制限をし、事前予約制にするなど、最大限の感染予防対策を行った上での開催となったが、約2000人の聴講者が集った。高木聖雨協議会副会長の司会進行のもと、黒田賢一副会長が会の紹介と本運動の活動報告をし、世界での豊富な経験を踏まえた佐藤氏の講演へと続き、河村建夫特別顧問（書道国会議員連盟会長）のご挨拶で終了。

協議会からは田中壮一郎会長、井茂圭副会長、星弘道副会長も出席し、山口県を始めとする中国地方等からのたくさん

の聴講者の参加もあって、ユニスコ無形文化遺産登録への力強い支援と、運動への更なる活力をいただいた有意義な活動となった。

〈講演会概要〉

ユニスコの遺産事業としての無形文化遺産

令和3年9月12日（日）

17時～18時30分

国際ホテル宇部 本館3階

グアイヤモンドホール

講師

佐藤地（さとうく）氏

（元ユニスコ日本政府代表部特命全権大使、前駐ハンガリー日本特命全権大使）



講演会講師 佐藤地氏



挨拶をする河村建夫特別顧問

書写・書道教育推進協議会の活動報告

1. 国語科教職課程における書写に関する実技の実態調査について
令和2年6月開催の書道国会議員連盟総会において、文部科学省に対し、小・中学校の教員免許取得に当たっての国語科での書道実技の実態調査を行うことが要望された。

これを踏まえ文部科学省において11月から12月にかけて調査が実施され、その調査結果が令和3年2月22日に文部科学省より小・中学校国語科教職課程を置く各大学等に対して通知された。通知においては、調査結果を踏まえ、書写に関する実技の充実を図るなど、より実践的な教育内容の充実を求めたほか、令和3年度末には取組状況のフォローアップ調査を行う予定であるとされた。

2. 書写に係る教員研修等のためのテキスト作成について

令和3年6月9日開催の書道国会議員連盟総会において、文部科学省から、教職課程を置く大学に対して実技指導の最低限踏まえるべきところを示してほしいとのコメントがあった。これを受け、書写・書道教育推進協議会の作業部会が8月6日に開催され、小・中学校の書写の教員研修、大学の教員養成課程（書写）に資する簡便なテキストを作成することとし、検討チームを設けることとした。9月30日の作業部会の検討を経て、11月25日の実務者会（田中壮一郎会長、星弘道、高木聖雨両副会長も出席）では検討チームにより、小・中学校の書写の教員研修、大学の教員養成課程にも資する簡便なテキストを、来年度を目途に作成するとの報告がなされた。

3. 新しい役員体制

（令和3年11月25日現在）

会長

田中壮一郎

（全国書美術振興会会長）

副会長

高木聖雨

（全国書美術振興会理事長）

副会長

真神巍堂

（全日本書道連盟理事長）

実務者会

座長

有岡郷崖

副座長

加藤泰弘

委員

青山浩之

荒井利之

加藤東陽

杉山勇人

高木厚人

高島一広

土橋靖子

長野竹軒

福井淳哉

「日本の書展」第50回 記念事業
「記念誌」刊行および「特別展」を開催（予告）

「日本の書展」第五十回記念
記念誌「全国書美術振興会五十年の歩み」
特別展「日本の書展を築いた先達の書」

昭和48年、「現代書道五十人展」としてスタートした「日本の書展」が、令和4年に第50回を迎える。当会が財団法人として認可、設立されてから今日までの国内、海外での事業、記念展や特別展、また書道界を挙げて取り組まれ参加してきた様々な事業について五十年史で振り返る。日本の書家が地域、会派を超えて一堂に会する目的で始まった「日本の書展」の初期出品者であり、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日本芸術院賞受賞者をはじめとし、当会発足に大きく貢献した物故書家62人の作品を東京にて展示する。併せて、初代理事長福島慎太郎の古希と勲一等瑞宝章受勲のお祝いに、当時の「日本の書展」出品書家76人により制作、贈呈された「受勲記念帖」を公開する。「受勲記念帖」については、第50回「日本の書展」の中部展、関西展、九州展会場にも展示予定。『記念誌』には、特別展「日本の書展を築いた先達の書」で公開される全作品を掲載する。

記念誌

『日本の書展』第五十回記念 全国書美術振興会五十年の歩み

内容 第1部 全国書美術振興会五十年史

第2部 「日本の書展」

第五十回特別展（図録）

第50回「日本の書展」出品者および関係者に記念品として贈呈する。

一般頒価3,000円（消費税込み）で展覧会場等で販売予定。

特別展

「日本の書展」第五十回特別展「日本の書展を築いた先達の書」

セントラルミュージアム銀座（紙バブル会館5階）

令和4年6月14日（火）

6月19日（日）

10時～18時「最終日は16時まで、入館は各日も閉館の30分前まで」

主催（公財）全国書美術振興会、共同通信社

後援 文化庁

入場無料

※展覧会場内の撮影不可

先達の書 62人

文化勲章受章者（受章順）

西川 寧 金子 鷗亭
青山 杉雨 村上 三島
杉岡 華邨 小林 斗盦
高木 聖鶴

文化功労者（選出順）

安東 聖空 手島 右卿
日比野五鳳 上條 信山
成瀬 映山 大平 山濤
古谷 蒼韻 小山やす子

日本芸術院賞受賞者（受賞順）

炭山 南木 山崎 節堂
松井 如流 田中 塊堂
桑田 笹舟 大石 隆子
金田 心象 廣津 雲仙
宮本 竹逕 木村 知石
殿村 藍田 小坂 奇石
浅見 寛洞 今井 凌雪
浅香 鉄心 伊藤 鳳雲
近藤 撰南 栗原 蘆水
甫田 鶏川 松下 芝堂
津金 孝邦 桑田 三舟
黒野 清宇 劉 蒼居

書展設立功労者（五十音順）

明石 春浦 浅見 錦龍
天石 東村 稲垣 松園
大島 崑山 小山 素洞
佐川 翠龍 貞政 少登
鈴木 桐華 高木 桑風
種村 山童 辻本 翔鶴
東地 滄厓 戸田 提山
西奥 鳴琴 西谷 卯木
梅 舒適 林田 芳園
東山 一郎 平田 華邑
藤本 士啓 深山 龍洞
山内 観



（左）福島慎太郎初代理事長に贈呈された受勲記念帖、「表紙」村上三島揮毫、（右）「桐箱」青山杉雨揮毫

展覧会案内

第50回「日本の書展」

例年と展覧会の開催順序を変更する。

※「日本の書展」第五十回特別展「日本の書展を築いた先達の書」で公開予定の「受勲記念帖」は、中部展、関西展、九州展会場でも展示予定。

※開催内容が変更となる場合があります。

中部展

令和4年5月31日（火）

6月5日（日）

愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）

10時～18時「最終日は16時まで」

主催（公財）全国書美術振興会、中日新聞社

東京展

令和4年6月16日（木）

6月26日（日）

国立新美術館（1階展示室1A、1D）

10時～18時

主催（公財）全国書美術振興会、共同通信社

後援 文化庁

関西展

※会場変更

令和4年7月8日(金)

7月10日(日)

大阪国際会議場(3階イベントホール)

10時~17時「最終日は16時まで」

主催 (公財)全国書美術振興会、産経新聞社

後援 文化庁、大阪府

協賛 (公社)日本書芸院

九州展

※2会場で開催

令和4年7月12日(火)

7月18日(月・祝)

〈第1会場〉福岡市美術館(2階ギャラリー)

現代書壇巨匠、現代書壇代表、委嘱

9時30分~17時30分「15日(金・16日(土))は20時まで」

〈第2会場〉福岡県立美術館(3階展示室)

招待、秀拔選

10時~18時「最終日は16時まで」

主催 (公財)全国書美術振興会、西日本新聞社

後援 文化庁、福岡県

※各展、入場は開場時間の30分前まで

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回。

島根(山陰中央新報社)

令和4年8月25日~8月29日

島根県立美術館

青森(東奥日報社)

令和4年9月3日~9月6日

News T.O.Oビル 3階催事場

富山(北日本新聞社)

令和4年9月16日~9月19日

富山県民会館

広島(中国新聞社)

令和4年9月29日~10月4日

福屋広島駅前店 8・9階催事場

岡山(山陽新聞社)

令和4年10月12日~10月17日

天満屋岡山店 6階葦川会館

奈良(奈良新聞社)

令和5年2月22日~2月26日

奈良県文化会館

長野(信濃毎日新聞社)

令和5年3月3日~3月6日

長野県立美術館

茨城(茨城新聞社)

令和5年4月8日~4月13日

ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)

子どもの毛筆体験教室 「筆もじにトライ!」

2022(予告)

初めて毛筆に触れる子どもや毛筆経験が浅い子どもを対象とした書道体験教室。用意された色柄のイラストうちわに、墨と筆で文字や線などを加えて、オリジナルのうちわを仕上げる。書道に関するクイズ、水書きシートや墨磨り体験をし、70分間の活動の中で毛筆の楽しさを体験してもらう。

令和4年8月10日(水)~12日(金)

の3日間

国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟2階

「第1ミーティングルーム」(東京都渋谷区)

募集対象 3才~小学校3年生

の子ども(保護者同伴必須)

参加費・材料費 無料

定員 各回20人 計160人

スケジュール

8月10日(水)

A 10時30分~11時40分

B 13時20分~14時30分

C 15時40分~16時50分

8月11日(木・祝)

D 10時30分~11時40分

E 13時20分~14時30分

F 15時40分~16時50分

8月12日(金)

G 10時30分~11時40分

H 13時20分~14時30分

申込み受付期間

詳細は4月以降、当会ホームページにて公開。申込みは専用申込みフォームのみにて受付の予定。

※開催内容が変更となる場合あり。

全国書美術振興会 役員

代表理事・会長

田中壮一郎

代表理事・理事長

高木 聖雨

業務執行理事・常務理事

大平 匡昭 黒田 賢一

仲川 恭司 星 弘道

真神 巍堂

理事

明石 聰濤 有岡 郷彦

市澤 静山 伊藤 一翔

牛窪 梧十 角元 正燦

高木 厚人 田中 徹夫

辻元 大雲 土橋 靖子

中村 仲夫 永守 蒼穹

横山 煌平

監事 室井 玄聳 吉澤 鐵之

和中 簡堂

※任期 令和2年12月2日~令和4年12月開催予定の定時評議員会の終結時まで

評議員

石澤 桐雨 伊藤 仙游

井上 映粧 井上 清雅

井之上南岳 今関 敏子

岩田 海道 岩永 栖邨

植松 龍祥 海野 涛山

大澤 城山 岡野 楠亭

尾崎 蒼石 加藤 義久

金子 大蔵 川嶋 毛古

鬼頭 翔雲 笹原 宏之

霜鳥 秋則 鈴木 響泉

田頭 一舟 高橋 利郎

歳森 芳樹 長井 素軒

西村 東軒 深瀬 裕之

福光 幽石 舟尾 圭碩

松清 秀仙 松下 英風

宮負 丁香 森上 光月

山中 翠谷 山根 互清

山本 高邨 吉川 美恵子

吉澤 大淳 吉澤 石琥

吉田 成美

※任期 令和元年12月2日~令和5年12月開催予定の定時評議員会の終結時まで

名誉顧問

鈴木 勲 荒船 清彦

日比野光鳳 井茂 圭洞

尾崎 邑鵬

顧問

新井 光風 池田 桂鳳

石飛 博光 梅原 清山

杭迫 柏樹 樽本 樹邨

中野 北溟

参事 赤江 華城 飯高 和子

※就任日 令和2年12月2日

近年物故者

令和3年1月以降
次の役員の先生方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

津金孝邦先生(前理事長・名誉顧問)

令和3年9月20日 92歳

関根玉振先生(評議員)

令和3年11月9日 72歳

大西きくゑ先生(参事)

令和3年12月8日 91歳

榎倉香邨先生(顧問)

令和4年1月21日 98歳

事務所のご案内

〒107-0005-2

東京都港区赤坂2-11-1デール

クス溜池山王6階

FAXTEL 03-3568-2071

03-3568-2072

ホームページ <http://shobi.or.jp/>

メールアドレス info@shobi.or.jp